

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まだ共有できていない部分もあるが、職員全体で実践できるよう心掛けている。	「愛」、「信頼」、「奉仕」、「希望」を法人の理念、ホームの理念としている。「運営方針」や「基本理念」は職員のネームプレート裏に印刷されており何時でも個々に振り返りが出来るようになっている。また、事務所と各ユニットにも掲示されており来訪者にも理解を頂いている。職員全員で年度ごとの「目標」を4項目掲げ、実践に取り組んでいる。理念にそぐわない言動や対応が見受けられた時にはその都度管理者が声掛けし助言をしている。	理念や運営方針をホームのケアの基本と捉え、職員全員で更に理解を深める手段を再考されることが求められる。契約時などに、利用者家族にもホームの取り組みに理解いただくために理念を説明されることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者さまが地域の行事に参加することは無いが、地域の行事を見学し交流をしている。地域のボランティアの方に来所いただき演奏会・レクリエーション会等を実施している。	法人として自治会に加入し、地区の回覧等により情報を得ている。法人内の保育園の園児が七夕に来訪し利用者と交流したり、市内のNPO法人が音楽レクリエーションの指導などに訪れ利用者も楽しんでいる。夏の祇園祭には子供神輿の来訪があり、地域の神輿担ぎに法人職員が参加するなど、地域との交流を大切にしている。隣接の病院祭には地域の方の来訪も多く盛大に行われ、利用者も手作りの作品等を販売し地域の人々と楽しく関わっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ行えていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して普段から色々な意見、希望をお聞きし、サービス向上に取り組んでいる。	利用者、家族代表、自治会会長、地域包括支援センター職員、市介護課職員、ホーム関係者参加の下、2ヶ月に1回開催している。また、実習生も参加したこともあり学生からの意見を聞けるいい機会となった。利用者の日頃の様子が分かるよう写真入りの資料を作成し活動報告などを行っている。会議で頂いた意見やアドバイスはホームの運営やケアに活かしている。	運営推進会議は利用者へのサービスの向上を目指し、地域の一員として生活が出来よう意見を交換する場としているため、利用者や家族も固定せず順次参加を促し、多様な意見を聞く機会とされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と、日頃から判断に迷う事等確認をさせていただき協力関係維持に努めている。(事務サイド)	市の介護課とは利用希望者の情報交換などを行っている。また、研修会の情報をいただき職員が参加している。介護認定の更新調査に立ち会う家族もあり日頃の様子など市の調査員に情報提供している。介護相談員2名が3ヶ月に1回来訪し、利用者の話を聞いていただきホームにも伝えていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保の観点から玄関の施錠は行うが、その他の身体拘束は行っていない。	法人で年2回、身体拘束についての研修を開き、うち1回は職員に参加を義務付けており、身体拘束の排除に取り組んでいる。転倒防止を職員がより早く察知するために家族の同意を得てセンサーマットを利用する方もいるが、常に検討し、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修に参加し、資料を皆で共有し防止に心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している方も当施設にはいる。またご家族から相談があった場合には適切な相談先を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できている。	意見や要望を伝えることが出来る方もいるが、困難な方には選べるよう声掛けしている。希望により毎週1回りハビリ治療を兼ね外泊され、自宅で野菜作りをされてくる方もいる。遠方の家族も月に1回は来訪しており、家族の面会時には声掛けし日頃の様子を伝え希望や意見を聞いている。夏祭りは家族会も兼ねて昼食会とし交流もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のユニット会議や、何かあればその都度皆で話し合い、統一した方向性で行っている。	毎月ユニット会議を開き意見交換している。会議の前に少人数で申し送りノートなどにより会議の議題を決めている。年度末には施設長と個人面談を行い意見や要望、異動などの希望も伝えることが出来ている。法人の医師によるストレスチェックも取り入れられ、助言、指導等、カウンセリングを受けることもできる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務状況を把握すると共に適切な能力評価を行い給与に反映し、職員個々のモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも毎週金曜日には研修が実施されている。直接参加することができないケースは資料やビデオをみて資質向上に役立てている。また今年は個人的に資格取得にチャレンジするスタッフもいた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	十分ではないが上田市内の勉強会には参加できるようにし、他のグループホームの方達と意見交換が図られる様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全てが出来ているわけではないが1つでも多く、希望が叶えられるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入段階及び途中でもこまめな連絡を心掛け、話し合う機会を多くしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族のお話を伺い必要としている支援を見極め、職員間で話し合い適切なサービスを行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に心がけているが、時に時間に追われ自分たちの介護を優先してしまうことがある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心掛け実践に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会希望者の来所にはいつでも対応している。但しご本人が外に出向くことは殆どない。	友人や自宅近所の方の来訪があり、利用者と居室でゆっくり過ごせるようお茶をお出ししている。携帯電話で家族に毎日連絡する方もいる。馴染みの理髪店を継続して利用している方や正月に外泊される方など、馴染みの関係を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の今までの生活スタイルがあるため無理をせず、声掛け誘導し、一緒に過ごす場を作っている。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会等を行い、心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心掛けているが、帰宅希望に対しては対応できていない。	利用契約時に生活歴などを家族から聞いているが、情報は少ないという。利用者と接している時の何気ない会話の中で利用者自身から昔の様子を聞くこともあり、記録に残し、職員間で情報を共有しケアに活かしている。また、常に希望を聞くことを基本に選ぶことができるよう場面づくりをしている。編み物の経験や絵を描くなどの趣味が活かせるように職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1か月に1度のユニット会議やモニタリング等によって対処し、早急な内容に関しては速やかに話し合い対応している。	職員は利用者1~2名を担当している。毎月モニタリングを行い、基本的には3ヶ月に1回ユニット会議で意見を出し合い見直しをしている。また、計画の見直しの際には家族にも意見を聞いている。状態に変化が生じたときには随時見直しを行いケアに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	すぐに対応できる場合は行っている。難しい場合は話し合いを重ね、それに近づけるよう努力している。		

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握できているとは言い難いが、運営推進会議のメンバーの方々の意見をお聞きしながら、施設運営に役立っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。薬や様子等変化があった場合、常にご家族に連絡を行っている。	利用契約時、隣接されている法人の病院が協力医であり受診はホームで支援していることを説明し、主治医を変更する方もいる。利用前からの主治医を継続されている方もおり希望に沿った医療が受けられるように支援している。職員には2名の看護師有資格者がおり健康状態には常に心配りがされている。法人内の訪問看護ステーションからも週1回の来訪があり、緊急時には24時間オンコール体制もあり医療と連携できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、訪問看護師の来所に合わせ、支援を行うと共に施設内の看護師が日々の確認を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会、医療機関とのカンファレンスに参加し、退院後の方向性を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた対応指針はあるが、現在まだそのような事例がない。しかし法人内での看取り例の報告をお聞きしたり、発表を聞きその時に備えるような体制づくりを始める必要があると認識している。現在マニュアルを整備中である。	利用契約時に「重度化・終末期ケア対応指針」により説明し、「看取り介護の同意書」(看取り介護の指針)に同意を頂いている。看取り介護の指針には医療行為を踏まえた様々な支援の方法が具体的に記されており、利用者と家族、主治医、協力医、ホーム関係者と話し合い再度希望お聞きし、希望に沿えるよう支援している。また、終末期ケア対応指針には「職員の教育・研修」の項目が明記されており、利用者の高齢化に備え終末期ケアの充実に取り組んでいる。法人のマニュアルを基本にホーム用のものも作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時や急変の場合はマニュアルに沿って対応している。定期的な訓練は実施していないが、都度指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練とともに、その都度避難の仕方を検討している。上田市災害メールを各スタッフは自携帯に取込み、地域からの情報収集に努めている。	年2回母体の病院と合同で避難訓練を行っており、消防器機の業者による消火訓練も行われている。消火器、自動火災報知器、スプリンクラーなどが完備されている。以前、近くの川の氾濫があったことから「上田市災害メール」は注意し確認している。災害用の備蓄品は母体の病院に用意されている。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者さんを大切にすの気持ちで、言葉かけ対応を行っている。	法人では「法令遵守」や「プライバシー保護について」、年間研修計画に組み込んでおり職員は必ず参加するようにしている。利用者の声掛けも苗字に「さん」をつけ敬意を込めてお呼びしており、同じ苗字の場合は名前で声掛けすることもある。男性職員もいるため入浴や排泄介助については出来る限り同性介助、或は希望をお聞きし支援している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を確認し、自己決定できるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ入居者さんの希望を優先するが時には職員側を優先してしまうことがある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	院内の美容室を利用できるよう支援したり、ご家族の協力を得て好きな物を購入したり持参して頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る利用者さんには無理のない範囲で手伝って頂いている。	法人の栄養士が行事や季節を大切に献立を作成しているので材料も届くが、調理方法などをアレンジし利用者に合わせている。誕生日には3時のおやつにケーキを食べお祝いをしている。利用者の力量に合わせ食事の下ごしらえ、食器のすすぎ洗いや食器拭きなどを一緒に行っている。毎週外泊される方が自宅で野菜づくりもされ、収穫した野菜を頂くなど、色々な食材から季節を感じている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力病院の管理栄養士と相談しながら、その方の食べやすい形状、水分量にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きと、1日1回の義歯洗浄に心掛け自分でできない方はスタッフが支援している。	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを確認し、オムツ内での排泄を極力少なくするため、トイレ誘導をしている。夜間は睡眠状態を把握しながら睡眠のさまたげにならないよう支援している。	約半数の方が布パンツで自立されているが、リハビリパンツとパットを安心のために使用している方もいる。出来る限りトイレで排泄することを大切に、様子を見ながらさりげなく声掛けしトイレ誘導を行っている。ポータブルトイレは状態に合わせて利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態については常に注意を払い排便しやすい飲食物を取り入れたり、レクでの排便を促す運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は職員の都合に合わせていただくケースが多いがその都度意思を確認し、入浴時間は本人のペースでゆっくりやっていたい。	基本的に週2回の入浴としている。利用者の状態により男性職員の介助であれば一人で女性職員であれば二人介助で行う場合もあり、利用者によっては職員体制に合わせて入浴して頂くこともある。浴槽は介助しやすいように左右に動かせるようになっている。隣接のデイケアに通っている方はホームに帰り次第入浴していただくなど、一人ひとりに沿った支援をしている。菖蒲湯などで季節を感じていただいたり入浴剤で変化を出すなど、楽しんでいただけるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった場合、スタッフ全体に申し送り、お薬手帳の確認、服薬後の変化に注意を払ってもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や、やりたいこととお聞きし、ご家族にも協力していただきながら、手芸、塗り絵、楽器演奏等して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段の生活の中で個人の行きたいところへ出かけることは、ご家族の協力が無いと難しいため今後の課題である。	病院や障がい者サービスの施設があるため敷地は広く、天気や体調に配慮しながら散歩を楽しんでいる。また、2ユニットがウッドデッキでも繋がっており日光浴が出来る。季節に応じてパラ園や上田の夏祭り「上田わっしょい」の見学など、外出計画を立て楽しんでいる。	

認知症対応型共同生活介護施設アルテミス・西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望すれば御家族の了解のもとに、大金以外でお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有できる空間は守ってもらいその利用者に沿った生活の中で工夫している。	ホームの玄関ポーチも広々としており、そこから各ユニットの玄関に分かれている。「光と風が通る空間」を意識した建物であるため、ユニット毎のリビングから居室への廊下には白い玉砂利が敷き詰められた中庭がありガラス張りで陽がサンサンと差し込みユニット全体が明るく利用者も食事の後日向ぼっこをされており、お気に入りの場所だと伺った。床下にはエアコンが何台も設置され床暖房の柔らかい暖かさが感じられた。トイレは廊下の突き当りの一步入った設計となっており、さりげなく利用で来るよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士で席に座って食事をしていただいたり、好きな場所でくつろげるよう、共有スペースを開放している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、ご本人と相談しながらその方に合ったものを使用いただいている。	居室には大きな窓があり、中の仕切りとして障子が設けられ、ベットであっても和室の雰囲気を感じられる。居室にはベット、筆筒、テーブル、椅子が用意されており、安心して利用することが出来る。連れ合いを見送られて間もなくで遺影や位牌、分骨を大切にされている方もいる。電子ピアノが持ち込まれ友達からの葉書や写真などを飾られてい居室もあり、思い思いに居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できている。		